

常任委員会行政視察報告

市議会では、市政の課題などに取り組むため、本年7月、先進的な事業に取り組む自治体の行政視察をそれぞれの常任委員会（委員数各9名）で行いました。

今回の行政視察を通じて得た各市の事業内容については、今後市議会や常任委員会として、さらなる市政の発展に取り組んでまいります。

総務産業建設常任委員会

- ◎ 神奈川県海老名市
- スマートフォンによる観光情報提供事業

海老名市のにぎわいづくりのため、えびな元気にぎわい検討会において基本構想を策定し、その中で来訪者の市内回遊促進を目的に、公式アプリ「えびな元気ナビ」を平成27年10月より開始しました。

4カ国5言語に対応した観光案内が可能で、観光地・飲食店、トイレ・授乳室・A E

Dなど約1千件の情報が登録されています。

また、防災ナビ機能が付いており、情報を受信すると、画面が避難画面に切り替わり、地震情報や最寄りの避難所情報が提供されます。

- 総合窓口の導入と民間委託の取り組み

人口増加や市民のニーズ変化に対応するため、平成24年5月より総合窓口の運用を開始しました。その後、さらなるサービス向上や効率化のため、「市民総合窓口」「福祉総合窓口」を順次、民間への委託を行いました。

その特色は、①市民総合窓口と福祉総合窓口のエリア分け、②受付番号発券機の導入やコンシェルジュの配置、③窓口を色分けし、目的別に表示、④待合スペース・共有部分面積の拡大、⑤事務室内の省スペース化、⑥キッズスペース・授乳室の設置、稼働式カウンターの採用などで、市民の高い評価を得ています。



海老名市での行政視察研修

◎ 長野県塩尻市

- センサーネットワークによる鳥獣被害対策事業

塩尻市では、平成24年に国の事業を活用したICT事業として「センサーネットワークによる鳥獣被害対策事業」に取り組みました。

被害耕地面積が85%であった北小野地区に導入し、1年目で被害面積が20%に減少、2年目には若干の侵入のみで被害はゼロとなりました。

対策には、金網やトラロープによる侵入防止とあわせて、獣検知センサーや檻アニマル

センサーなどの機器を活用し、地元農家や猟友会の携帯メールへ瞬時に獣出没情報が提供され、「必要なときに必要な場所に駆けつける」という利便性の高い仕組みになっています。

◎ 長野県上田市

- 大河ドラマ「真田丸」を活用した観光事業の取り組み

上田市では、「真田丸」の放送が決定してから、これまでの真田関連の観光事業との相乗効果で、さらなる誘客を目指したさまざまな事業を展開しています。

NHK大河ドラマ真田丸上田市推進協議会を中心に、官民が連携した観光事業、県内外自治体との共同の観光事業、NHKとのタイアップ事業、JRとの連携など、広域的な連携による取り組みが行われています。

また、今年の「上田真田まつり」には、ドラマの出演者が武者行列に参加したり、1月に開館した大河ドラマ館は、6月時点で、来場者が40万人を突破するなど、真田丸を契機として、多くの観光客が訪れています。

- 耕作放棄地対策事業としてのワイン用ブドウ団地、農産物直売所

耕作放棄地（約25ヘクタール）の地元住民の協力のもと、企業の進出により、約21ヘクタールがワイン用ぶどう団地へと再生されました。

ぶどうの収穫量は80トン以上で、生産されたワインは、国内外のコンクールで金賞を受賞するなどの高い評価を得ています。

また、収穫作業体験やワイン試飲会、あまった土地を活用した地元小学生によるシャガイモや蕎麦の栽培なども行っており、地域の活性化にもつながっています。

農産物直売加工センター「あさつゆ」では、生産者名の入ったバーコードにより1時間おきに売上データがメールで配信されます。生産者は、販売状況を見ながら、必要に応じて搬入を行っています。

このような販売上の特徴から売り上げを順調に伸ばしています。